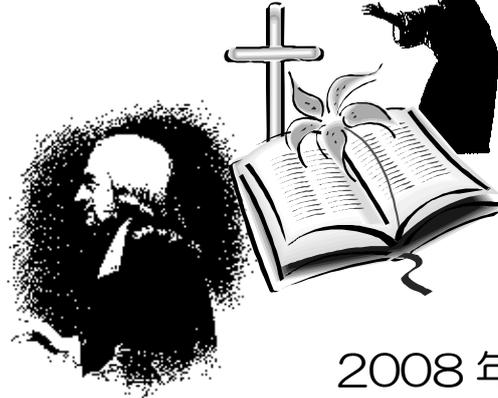


2008.10.26 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



きよめのハイウェイ⑨ 「光の中を歩む」

主テキスト：

「私達も光の中を歩んでいるなら、私達は互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」
(Iヨハネ 1:7)

「光の中を歩む」とは、

A. 聖書的に見て

1. 闇から光に入れられたことを確認する—私達は暗闇という圧制から釈放された(コロサイ 1:13「暗やみの圧制から救い出し」、使徒 26:18「暗やみから光に、サタンの支配から神に」、エペソ 5:8、1ペテロ 2:9「やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に」)
2. だから闇の中を歩まない
 - ①罪の生活を捨てる(ローマ 13:12「遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく」)
 - ②光に曝されて具合の悪いような行為から離れる(エペソ 5:11-12「実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出さなさい。」)
 - ③憎しみを捨てる(1ヨハネ 2:9-11「兄弟を憎む者は、やみの中におり」)
3. 光の中を歩むとは
 - ①主に従う(ヨハネ 8:12)
 - ②きよい生活を送る(エペソ 5:8-9「光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実」)
 - ③示された真理に従う(ヘブル 6:4-6「一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊に与る者となり、神のすばらしい御言・・を味わったうえで、しかも墮落してしまうならば」)

B. きよめの道との関連で

「新約のきよめ」(トマス・クック著)の中で、転機後の成長のための恩寵の手段の一つとして「光の中に歩む」を挙げている。

「私達の献身は、光に照らされる範囲が常に拡大するのに応じて、拡大され続けなければなりません。…真理をより明瞭に理解するようになると、必然的に動機や気質や会話や行動を精査しなければなりません。…献身の最初の行為はくり返される必要はありませんが、日々にそれを改革し、強めなければなりません。」

<テーマソング> 「みくにの大路」(福讃 365)

- ①みくにの大路に 花咲きかおり
救いを喜ぶ 歌声絶えず
(折返) みくにの大路を 直く歩めば
憂いの雨晴れ、朝日輝く

We shall see the desert as the rose,
Walking in the King' s highway;
There' ll be singing where salvation goes,
Walking in the King' s highway.
There' s a highway there and a way,
Where sorrow shall flee a way;
And the light shines bright as the day,
Walking in the King' s highway.